

たごのうら まめちしき ~海の安全~



あれれ？



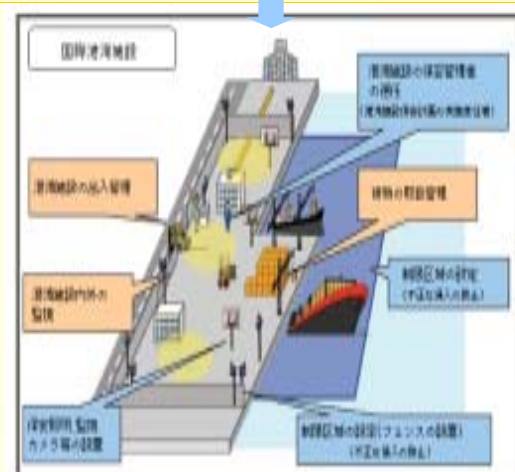
SOLAS 条約って？
~あの悲劇から生まれた条約~

明治 45 年、当時世界最大級だった豪華客船タイタニック号が処女航海中流氷と衝突し沈没しました。犠牲者は 1500 人。海難史上に残る惨劇でした。映画「タイタニック」でご存知の方も多いことでしょう。
この大惨事の原因は船の構造以外にも、タイタニック号からの遭難信号(世界初の SOS 発信でした)が理解されていなかった、また当時は無線設備に対する強制法規がなくタイタニック号からの遭難信号を受け取る事自体が遅れたこと、さらには乗員数に見合わない少なすぎた救命艇などが、その原因として上げられています。
この事故を受け、国際条約を取り決める事になりました。
2001 年ニューヨークで起きたテロ事件をきっかけに、より厳しく改正されました。
船舶の保安だけではなく、港湾施設の保安対策も盛り込まれています。

みなとがフェンスで囲われちゃった！

工事？ いいえ 違います。
2004 年に海の安全に関する世界的な決まり事である SOLAS 条約(海上人命安全条約)が改正されました。
田子の浦港でも国際貿易港湾として、海の安全を守るため、保安対策を強化しています。
身近な存在である田子の浦港ですが、世界各国との窓口です。危険な荷物や人の出入りがないかを見張っています。

具体的には...



国土交通省 HP より

イベントメモ

田子の浦漁協しらす祭

毎年 9 月第 4 日曜日に田子の浦漁港で開催されています

しらすをはじめとする海産物の出店やしらす漁船への体験乗船などのイベントが行われます。



1 杯 200 円の「しらすどんぶり」

つやつや透明のしらすに長蛇の列ができました!!

【今後の発行予定】

第 6 号： 田子の浦港と市民活動 (みなとまちづくり)

「田子の浦港みなとまちづくり基本構想」の紹介

~都合により変更する場合がありますのでご了承下さい~

ご意見、ご質問、バックナンバー等に関するお問い合わせはこちらまで

静岡県 田子の浦港管理事務所

TEL 0545-33-0498

FAX 0545-33-1009



〒417-0015
富士市鈴川町 2-1

E-MAIL tago-koumu@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページ <http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki3/tagonoura/index.htm>

たごのうらつうしん

いっしょに考えましょう
富士と田子の浦港のみらい

第 5 号



発行：静岡県田子の浦港管理事務所

富士市における田子の浦港の役割

田子の浦港は、昭和 38 年の開港とともに、製紙・パルプ工業などの富士市の産業にとって原材料や製品の受け入れや積み出しの窓口としての役割を担い、昭和 52 年には工業出荷額で静岡県第 1 位になるなど、富士市の産業面で大きな役割を果たしてきました。

近年は田子の浦港の富士ふ頭を中心会場にした「田子の浦みなと祭り」や鈴川ふ頭を会場にした「MOTOマリンフェスタ」など富士市民の交流の場の提供といった役割も担っています。

今回は、富士市の産業面での田子の浦港の役割を紹介しましょう。



田子の浦港の新たな役割

富士市の平成 17 年の製造品出荷額は前年よりも 1.0% 減で、静岡県下 43 市町中 6 位となりました。

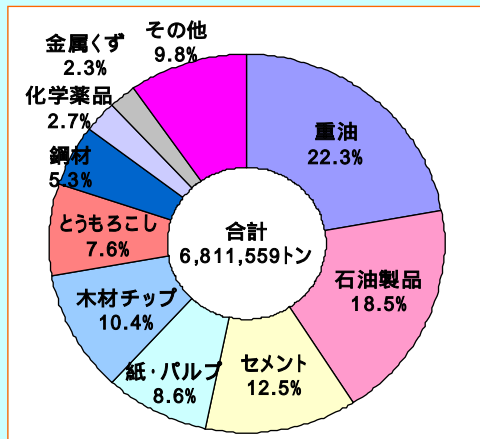
富士市の主要な産業であるパルプ・製紙業や食品工業などで使用される原材料は海外からの輸入に頼っていますが、これらを大型船で大量輸送することによりコストダウンを図り、生産性を向上させるなど、富士市の産業再生に寄与するために、田子の浦港の整備・拡充を図る必要があります。

また、活々とした市民生活の一端を担うために、開かれた港として、公園緑地の提供や、「田子の浦みなと祭り」など田子の浦港を会場とした市民交流の場の継続・発展に力を入れる必要があります。

富士市の産業、市民の防災の面からは、東南海地震等の大規模地震に備えた緊急避難場所の確保、緊急物資や復旧物資の受け入れのための岸壁や配送基地の確保が求められています。

富士市における田子の浦港の役割

富士市は静岡県東部の中心都市の1つであり、富士地区の行政・産業の核となる市です。その中で産業の視点から、田子の浦港が果たしている役割をご紹介します。

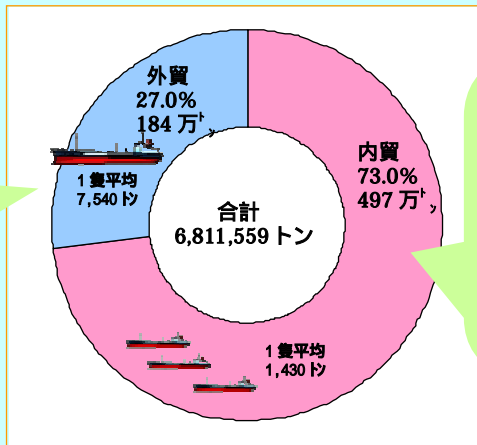
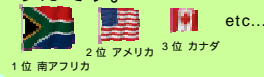


品種別海上出入貨物の構成 (H17)

平成 17 年、田子の浦港には 3,716 隻（せき）もの船が入港しました。このうち外国からの船（外航船）は 6.6%、国内からの船（内航船）が 93.4%でした。右のグラフは外航船および内航船で取り扱う貨物の量の内訳をしめています。外航船は大型の船を使用し、少ない船で大量の貨物を取扱うことがわかります。

田子の浦港において、去年一年間に揚げ下ろしされた貨物の量と種類を表しています。一年間に扱われる貨物の量は実に東京ドーム 5 杯分！（すべての比重を 1 として計算）県内港湾全体貨物量の約 20%、第 2 位を占めています。

外航船の数は 244 隻で、全体隻数の 6.6%の船で全体貨物量の 30%近くを取扱っています。取扱量第 1 位は南アフリカです。



海上出入貨物の構成 (H17)

内航船の数は 3,472 隻で、全体隻数の 93.4%の船で全体貨物量の 70%以上を取扱っています。

田子の浦港の現状・・・

田子の浦港には、一年間に 50 メートルプール 50 杯分の土砂が流れ込みます。この土砂を絶えず掘らなければ、港は土砂で埋まってしまいます。さらに最近の船の大型化に対応するため、航路や泊地を 3m 掘り下げる工事も行っています。

港の水深の維持ができなくなり
田子の浦港がうまく機能しなくなったら...



田子の浦港で取り扱われている貨物を清水港から陸路約 32km をトラックで運ぶとすると・・・

・流通費用の高騰 経済損失

その金額は年間約95億円にもなると予想されます。

「田子の浦港の地域影響・効果調査委託報告書」
(平成元年)のデータを現在の貨幣価値に換算

・交通量の増加 環境悪化

20^トトラックで運ぶとするとおよそ 34万台分となり1日当たり約1000台となります。トラックは船の約5倍の量のCO₂を排出すると言われています。

船は、環境にやさしくしかも経済的な輸送手段です

生産活動を支える港湾としての役割

製紙工場は富士市内に70箇所以上あり、生産量は全国の12%あまりを占めています。これらの工場では主にトイレットペーパーやティッシュペーパー、新聞用紙などが作られています。

富士市の主要産業である、パルプ・紙・紙加工品産業で働くひとは約 1 万 2 千人にのびります。

背後の食品加工業の米穀類の輸入

富士市では食品加工業も発達しています。アメリカなどから運び込まれたとうもろこしを原料に、コーン油やでんぷんやオリゴ糖、ニワトリの餌などが作られています。でんぷんやオリゴ糖は、パンやケーキ、ジュースの材料となります。

供給基地としての役割

陸揚げされる石油類は市内の工場やガソリンスタンドへはもちろん、山梨や長野にも運ばれます。また、各家庭で使用されている灯油なども陸揚げされています。

田子の浦港と富士市とのかかわり

・ 就業人口

富士市の工業就業者数のうち約30%がパルプ・製紙業に従事しています。その原料のほとんどは、田子の浦港で陸揚げされています。

(出典：富士市統計書 平成17年度版)

・ 生産額

パルプ・製紙業は富士市の製造品出荷額の約35%を占めています。

(出典：富士市の工業 平成18年4月)

このように田子の浦港は産業面において富士市と深くかかわっています。

